

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年4月25日（金）

2 確認箇所

車両スクリーニング場（図1）

3 確認項目

2号機燃料デブリ試験的取り出し作業の状況

4 確認結果の概要

2号機において2回目となるテレスコピック式試験的取り出し装置（以下「テレスコ装置」という。）による燃料デブリ^{*}試験的取り出し作業は、4月15日にテレスコ装置先端部が原子炉格納容器隔離弁を通過し、作業着手となった。

その後、4月17日に燃料デブリの把持に成功した。

採取した燃料デブリは4月21日に取り扱える線量（24mSv/h以下（20cm位置））であることを確認し、4月23日から24日にかけてグローブボックス内で重量等の測定を行った後、構外輸送容器へ収納し構内一時保管施設まで輸送が行われた。

本日は、採取した燃料デブリを茨城県の日本原子力研究開発機構大洗原子力工学研究所に向けて輸送する作業を実施することから、その状況について確認した。（前回確認：[令和7年4月17日](#)）

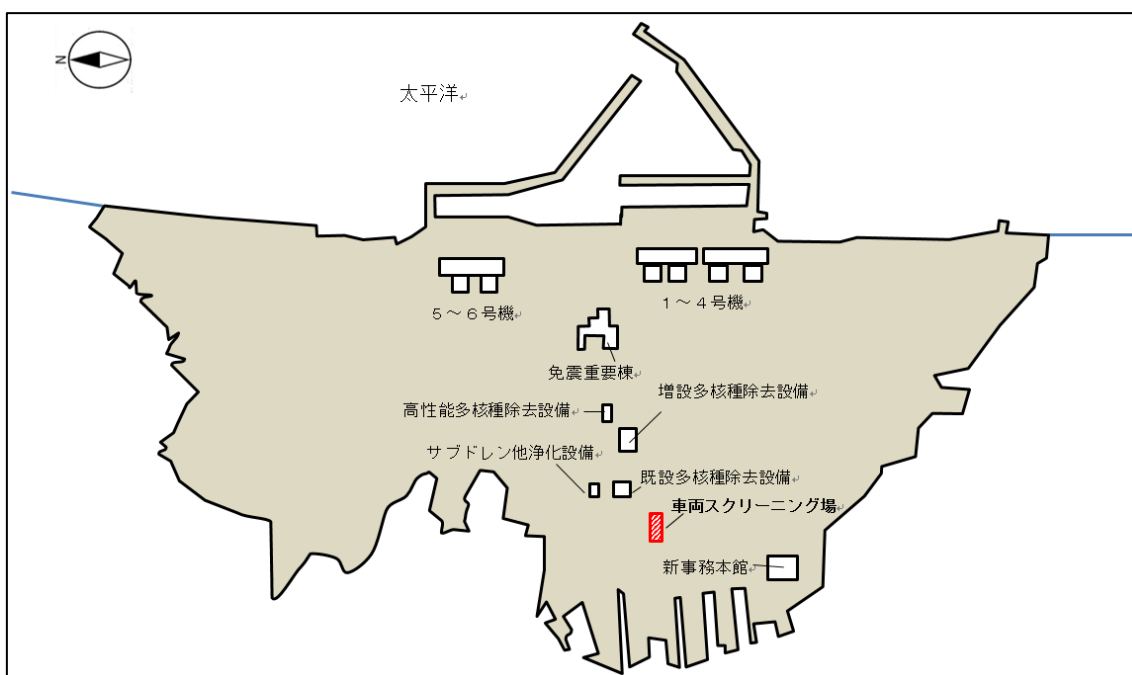
【確認結果概要】

- ・構内一時保管施設から輸送容器を輸送用トラックに積載する作業が開始された。
- ・輸送用トラックの荷台に積載した輸送容器をベルト等で固縛後、固縛状況の確認作業が行われた。
- ・確認作業後、車両スクリーニング場に向けて輸送用トラックが移動した。
- ・輸送用トラックが車両スクリーニング場に到着後、荷台上に作業員が乗り込み、汚染状況の確認作業が行われた。その後、車両表面及び1m地点の線量測定が行われた。
- ・県において、輸送用トラックの前後左右における車両表面及び1m地点の線量測定を行い、バックグラウンドと同等であることを確認した。（写真1）
- ・汚染状況の確認後、日本原子力研究開発機構大洗原子力工学研究所に向けて輸送用トラックが出発した。
- ・作業は指揮者からの指示の下、適切に実施されていた。

- ・東京電力によれば、14時38分に輸送を完了したとのことであり、今後1年～1年半程度をかけて詳細に分析を進める計画としている、分析結果から得られた知見は、燃料デブリ取り出し工法および安全対策、さらには取り出した燃料デブリの保管方法等の検討に活用するとのことである。

※ 燃料デブリ

過熱した燃料が燃料被覆管や炉内構造物等とともに溶融し、その溶融物が冷えて固まったもの。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
県による車両の表面サーベイの状況

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータに異常な値は確認されなかった。